

2017年(平成29年) 6月23日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/8~6/14のNYMEX・WTIは44.73~46.46ドルの範囲で引き続き弱含みに推移した。

6月15日は、13日のOPEC月報や14日のIEA月報によるOPEC産油国の増産傾向、前日の米国のガソリン在庫の予想外の積み増し等、需給緩和の長期化観測の広がりから、続落した。7月限の終値は前日比0.27ドル安の44.46ドルだった。

週末16日は、週末を控えたポジション調整や安値拾いの買いに加え、ユーロ高・ドル安進行に伴う原油先物の割安感、協調減産に参加するカザフスタンの減産強化方針の報道等により、3営業日振りに反発した。ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が747基(前週比6基増、22週連続増加)との発表には、市場の反応は限られた。7月限の終値は前日比0.28ドル高の44.74ドルだった。

週明け19日は、減産を免除されているリビアの増産見通し、アラブ紙へのサウジのファリハ・エネルギー相の原油市場の需給均衡は本年末にずれ込むとの発言等を受けて、反落した。7月限の終値は前週末比0.54ドル安の44.20ドルだった。

20日は、リビアとナイジェリアの増産傾向が明らかとなり、一段と需給緩和感が拡大し、大幅続落した。7月限の終値は前日比0.97ドル安の43.23ドルだった。

21日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油・ガソリンともに予想を上回る減少が報告されたにも関わらず、根強い供給過剰感とポジション調整による売り等で、続落した。この日から中心限月となった8月限の終値は前日比0.98ドル安の42.53ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週46.60~47.30ドルで弱含みに推移した。6月15日は45.70ドル、16日は45.50ドル、19日は45.70ドル、20日は45.40ドル、21日は44.50ドルで推移した。

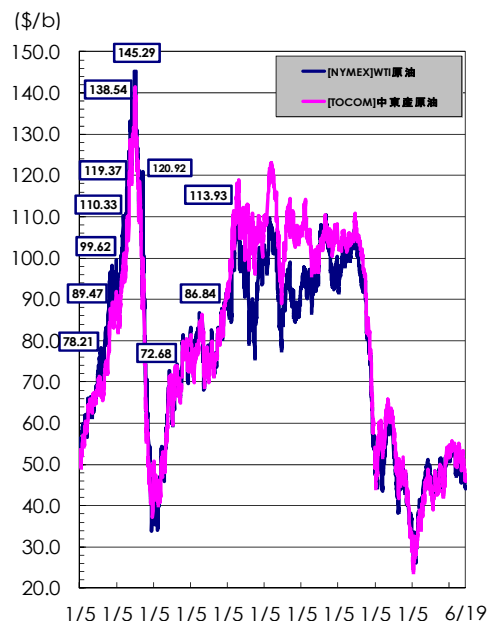
為替は、前週109.99~110.23円の狭い範囲で推移した。6月15日は109.72円、16日は111.09円、19日は111.03円、20日は111.77円、21日は111.38円で推移した。

財務省が19日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格は、37,938円/klとなり、前旬を36円上回った。ドル建てでは、53.29ドルで前旬比0.78ドル安。為替レートは1ドル/113.18円。また、同日の貿易統計速報(月間ベース)によると、5月の原油輸入平均CIF価格は、37,777円/klとなり、前月を164円上回った。ドル建てでは、53.85ドルで前月比0.05ドル安。為替レートは1ドル/111.52円。

主要元売会社の6月第4週に適用する卸価格は、ガソリン・中間留分ともに1.0円の値下げから0.5円の値上げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートは円安だったが、原油価格の下げ幅のほうが大きく原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、6月19日時点の小売価格は、ガソリンが0.6円値下がり、軽油は0.4円値下がり、灯油は0.1円値下がり、元売の卸価格は1.0円と1.5円の値下げに分かれた。

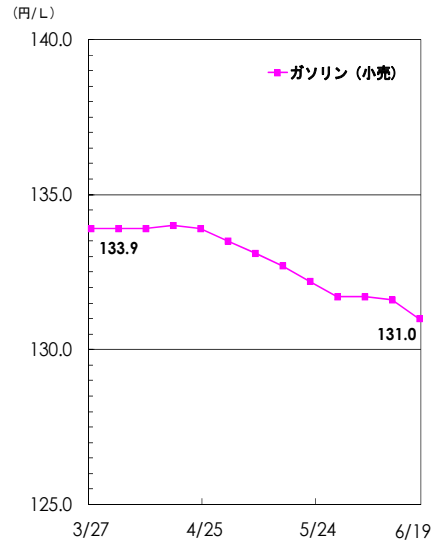
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/11 ~ 6/17	3,084 ▼ -49	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.8 ▼ -1.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/17	13,363 ▼ -770	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/19	46.06 ▼ -1.41	▲ 0.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/19	44.20 ▼ -1.88	▼ -5.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	53.29 ▼ -0.78	▲ 12.61
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	37,938 ▲ 36	▲ 10,064
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.18 ▼ -1.74	▼ -4.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/19	112.03 ▼ -0.80	▼ -6.34



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/11 ~ 6/17	927 ▼ -17	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	965 ▲ 60	▲ -	
	輸出	"	54 ▲ 14	▲ -	
	在庫	6/17	1,892 ▼ -92	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/13 ~ 6/19	48.2 ▼ -0.8	▲ 3.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/13 ~ 6/19	46.5 ▼ -1.0	▲ 2.4
		(TOCOM/中部)	6/19	46.5 ▼ -0.1	▲ 3.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/19	131.0 ▼ -0.6	▲ 7.0	

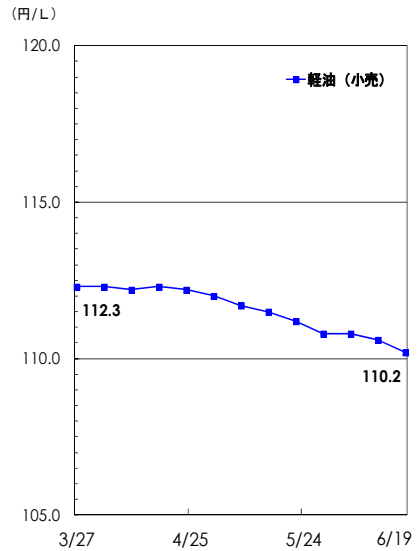
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

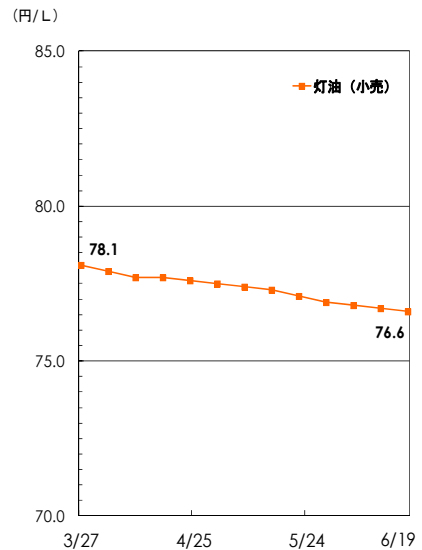
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/11 ~ 6/17	789 ▲ 146	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	602 ▲ 17	▼ -	
	輸出	"	161 ▼ -45	▲ -	
	在庫	6/17	1,455 ▲ 26	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/13 ~ 6/19	47.0 ▼ -0.6	▲ 5.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/13 ~ 6/19	48.0 → 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部)	6/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/19	110.2 ▼ -0.4	▲ 6.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/11 ~ 6/17	147 ▲ 27	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	80 ▲ 27	▲ -	
	輸出	"	3 ▲ 3	▲ -	
	在庫	6/17	1,480 ▲ 64	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/13 ~ 6/19	45.4 ▼ -1.1	▲ 4.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/13 ~ 6/19	44.3 ▲ 0.4	▲ 4.5
		(TOCOM/中部)	6/19	44.6 ▲ 0.6	▲ 5.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/19	76.6 ▼ -0.1	▲ 12.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月21日のNYMEX市場WTI原油は、この日の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、最新週の原油在庫が前週比250万バレル減少と市場予想(同210万バレル減)を上回り、ガソリン在庫も増加予想に反して同60万バレル減少したことから、反発して始まったが、米国内の原油増産やリビア・ナイジェリアの増産傾向など供給過剰感が根強く、ポジション調整や利益確定の売りも広がり、3日連続で大幅続落、中心限月ペースで2016年8月10日の41.71ドル以来約10カ月振りの安値を記録した。8月限の終値は前日比0.98ドル安の42.53ドル、9月限の終値は前日比1.02ドル安の

42.75ドルだった。

EIAによると、6月19日時点のガソリンの小売価格は前週比4.8セント値下がりの1ガロン2.318ドル(67.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.5セント値下がりの2.489ドル(72.9円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月11日～6月17日に休止したトッパー能力は64.7万バレル/日で、前週に対して12.4万バレル/日の増加(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は308.4万klと、前週に比べ4.9万kl減少。前年に対しては17.0万klの減少。トッパー稼働率は78.8%と前週に対して1.2ポイントの減少、前年に対しては2.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.8%減、ジェット/1.8%増、灯油/22.5%増、軽油/22.7%増、A重油/13.2%減、C重油/39.7%増。今週のC重油の輸入は2.8万kl(前週比4.0万kl減)。軽油の輸出は16.1万kl(前週比4.5万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では、軽油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は96.5万kl(対前週6.7%増)と3週振りに前週比で増加、4週振りに前年比で増加となり、3週連続で100万klを下回った。

ジェット8.8万kl(対前週48.2%減)、灯油8.0万kl(対前週49.5%増)、軽油60.2万kl(対前週2.8%増)、A重油17.7万kl(対前週12.3%減)、C重油19.6万kl(対前週16.2%増)。

(単位:千kl)

	今週 (6/11 ~ 6/17)	前週 (6/4 ~ 6/10)	前週比	
ガソリン	965	905	▲ 60	(7%)
ジェット燃料	88	169	▼ -81	(-48%)
灯油	80	53	▲ 27	(51%)
軽油	602	585	▲ 17	(3%)
A重油	177	202	▼ -25	(-12%)
C重油	196	168	▲ 28	(17%)
合計	2,108	2,082	▲ 26	(1%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月17日時点の在庫は、ガソリン、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは189.2万kl、前週差9.2万kl減。前年に対しては±0.0万kl。

灯油は114.8万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては25.2万kl少ない。

軽油は145.5万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては0.9万kl多い。

A重油は80.3万kl、前週差0.9万kl減。前年に対しては1.9万kl少ない。

C重油は207.0万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては6.7万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (6/17)	前週 (6/10)	前週比	
ガソリン	1,892	1,984	▼ -92	(-5%)
ジェット燃料	1,148	1,061	▲ 87	(8%)
灯油	1,480	1,416	▲ 64	(5%)
軽油	1,455	1,429	▲ 26	(2%)
A重油	803	812	▼ -9	(-1%)
C重油	2,070	2,125	▼ -55	(-3%)
合計	8,848	8,827	▲ 21	(0.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月13日から19日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートはやや円安であったが、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン101～102円台でほぼ横ばい、軽油46～47円台でやや軟化、灯油45円台でほぼ横ばいで推移した。海上スポット価格は、ガソリン104円台でやや軟化、軽油47～48円台でやや軟化、灯油43～44円台でやや軟化で推移した。先物価格は、ガソリン99～101円台で軟化、軽油48円台で横ばい、灯油43～44円台でやや軟化で推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、1.0円値下げから0.5円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値下がりし、製品スポット市況は、陸上の全油種と海上のガソリン・軽油が値下がりし、先物の軽油が横ばい、海上と先物の灯油が値上がりし、全体として値下がりした。週間のガソリン販売量は、3週振りに増加したが、3週連続で100万kl割れとなった。

6月第4週(6月22日～28日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月13日～6月19日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値下がり、軽油は0.6円の値下がり、灯油は1.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.4円の値下がり、軽油は0.4円の値下がり、灯油は0.3円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.0円の値下がり、軽油が横ばい、灯油は0.4円の値上がりだった。原油価格は値下がりし、為替はやや円安であったが、原油コストは値下がりとなった。

6月第4週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下げから0.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (6/13～6/19)	前週 (6/6～6/12)	前週比
スポット価格	レギュラー	48.2	49.0	▼ -0.8
	灯油	45.4	46.5	▼ -1.1
	軽油	47.0	47.6	▼ -0.6
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (6/13～6/19)	前週 (6/6～6/12)	前週比
先物価格	レギュラー	46.5	47.5	▼ -1.0
	灯油	44.3	43.9	▲ 0.4
	軽油	48.0	48.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/13～6/19実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	▼ -1.0	▼ -0.9
灯油	▼ -1.1	▲ 0.4	▼ -0.3
軽油	▼ -0.6	➡ 0.0	▼ -0.3
A重油	▼ -0.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円値下がりの131.0円、軽油も前週比0.4円値下がりの110.2円、灯油は前週比0.1円値下がりの76.6円だった。ガソリン、軽油は2週連続の値下がり、灯油は9週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは3県、横ばいは2県、値下がり42都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、徳島県の124.4円(前週比1.6円安)、次が埼玉県(126.9円(同0.1円安))だった。最高値は沖縄県の140.0円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.7円高の岡山県(127.3円)、最も値下がりした県は同2.7円安の滋賀県(127.0円)、横ばいが沖縄県

(140.0円)と香川県(131.8円)だった。

原油コストは値下がりし、元売りの卸価格も1.0円の値下げと1.5円の値下げに分かれ、2週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートはやや円安であったが、原油コストは値下がりした。元売会社の卸価格は、1.0円の値下げと0.5円の値上げに分かれた。次週(6月26日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)				
		今週 (6/19)	前週 (6/12)	前週比		
小売価格	レギュラー	131.0	131.6	▼ -0.6		
	灯油	76.6	76.7	▼ -0.1		
	軽油	110.2	110.6	▼ -0.4		
					直近高値	
					08/8/4	185.1
					08/8/11	132.1
					08/8/4	167.4

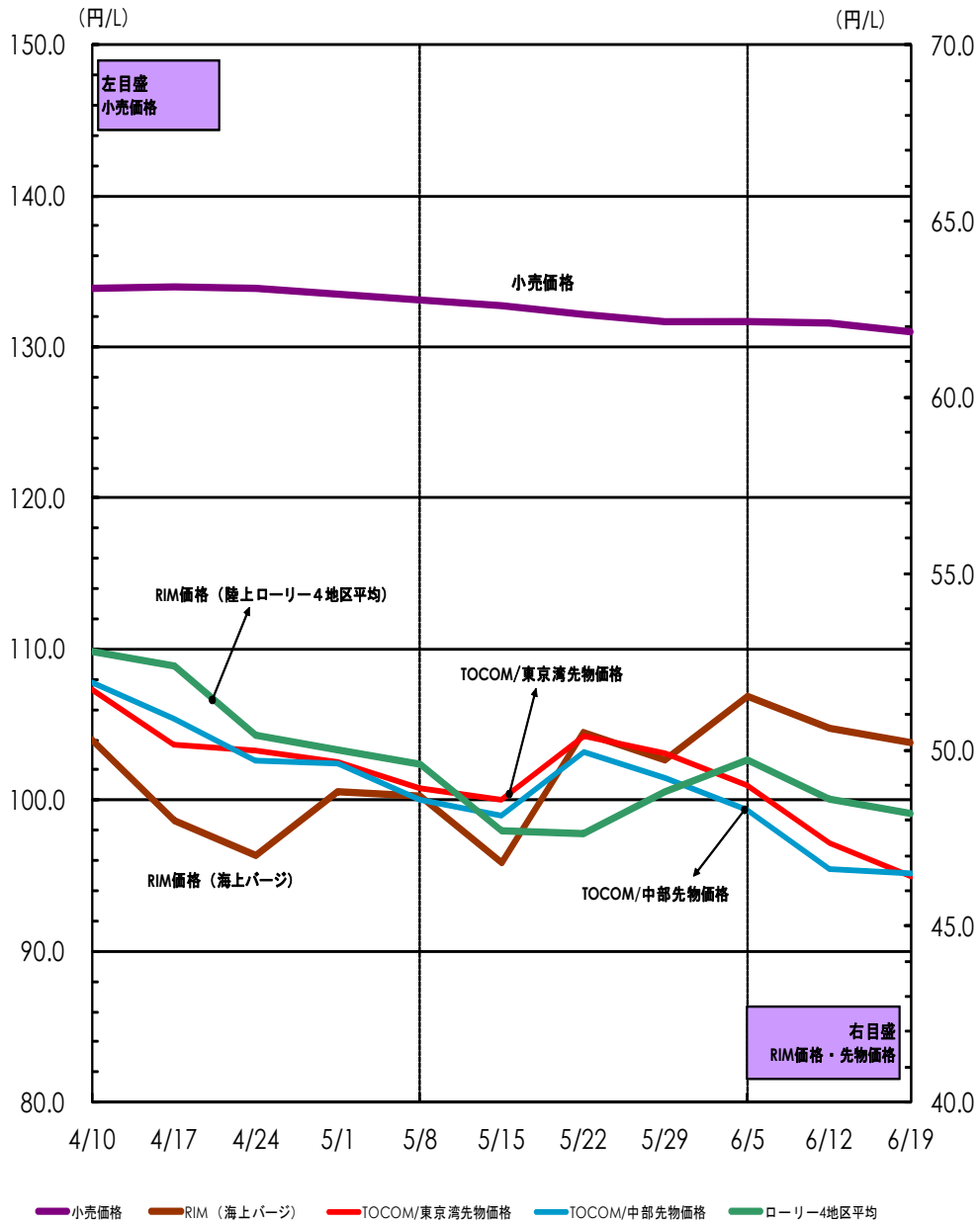
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/4/10 ~ 2017/6/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第12号)の公表は、6/30(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。